

|        |                             |      |  |
|--------|-----------------------------|------|--|
| 学校教育目標 | 夢と志をもち、よりよく生きようとする「板城っ子」の育成 | 経営理念 | ○ミッション:確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく、主体的・協働的に学ぶ児童の育成<br>○ビジョン:「学んでよかった!」来させてよかった!と信頼され期待される学校づくり<br>・児童が学びたくなる学校<br>・教職員が誇りとやりがいをもてる学校<br>・保護者や地域が通わせたい学校 |
|--------|-----------------------------|------|--|

| 評価計画    |    |                        |                      |   |   |     | 自己評価   |  |    |  |    | 学校関係者評価<br>(学校運営協議会による評価)   |   | 改善方策 |
|---------|----|------------------------|----------------------|---|---|-----|--|--|----|--|----|---|---|------|
| 項目      | 重点 | 中期経営目標                 | 短期経営目標               | 目標達成のための方策  | 評価項目  | 目標値 | 達成値  |  | 評価 | 結果と課題の分析   | 評価 | コメント  | 改善方策  |      |
|         |    |                        |                      |   |   |     | 10月  | 達成度  |    |  |    |   |   |      |
| 確かな学力   | 1  | 自ら学ぶ態度の育成と学力の向上        | 研究主題に基づく授業研究(表現力の向上) | ○主体的にかかわりあって学ぶ学習活動の実践<br>○表現力を育成する学習活動の実践研究                           | ・単元末テストの思考、判断、表現項目の正答率70%以上の児童の割合【80%以上】<br>・全国学力学習状況調査、NRT学力検査【全国平均以上】   | 80% | 単元末テスト<br>86.5%<br>NRT学力検査 全国学力・学習状況調査達成率<br>80% | 単元末テスト<br>108%<br>NRT学力検査 全国学力・学習状況調査達成率<br>100% | 3  | ・単元末テストの正答率70%以上の児童は、国語94.1%、算数78.9%であった。算数の表現力に課題があり、知識及び技能の定着にとどまらず、表現する経験を積ませる必要がある。<br>・2～5年生対象のNRT学力の結果、国語は全学年で、算数は2・3年で全国平均値を上回った。6年生対象の全国学力学習状況調査は、国語・算数ともに全国平均値を上回り、県と市の平均も上回ることができた。<br>・学習状況の把握し、定着を図る時間を確保したり、児童が主体的に学びに向かう指導の改善に努めたりする必要がある。 | B  | ・大きい声を出せる子供を育成してほしい。<br>・表現する経験や質問できる能力を研いでほしい。<br>・授業が落ち着いていてよい。<br>・表現力がもっと出てくるとよい。 | ・現在の効果的な取組を継続していく。<br>・表現力を鍛えていく。                                     |      |
|         |    |                        | 基礎基本の定着・向上           | ○ICTの効果的な活用の推進  | ・情報活用に関する児童アンケートの肯定的評価【80%以上】   | 80% | 85.2%  | 106.5%   | 3  | ・活用系統表を作成したことで、教職員の意識を統一しながら指導することができた。また、活用推進計画に基づき、計画的に取組を進めることができていた。<br>・活用頻度については、85.2%の児童(3～6年生)が週3回以上授業で活用していると実感している。現時点で昨年度末の数値を上回っており、取組の成果が表れている。<br>・今後は、教員の技能および活用内容の質を高めるため、有効な活用事例の共有や、AI活用に関する研修などを実施する。                                 | B  | ・ICT活用推進計画を立てて取り組むことが良い。<br>・具体的な活用指導を継続してほしい。  | ・現在の効果的な取組を継続していく。  |      |
| 豊かな心    | 2  | 社会生活を円滑に進めていける資質や能力の向上 | 自己指導能力の育成向上          | ○自分や友達の良さに気づき、自己肯定感を味わう活動の推進  | ・児童アンケート「自分の良さが認められている」と感じている児童の割合【80%以上】                                 | 80% | 85.2%  | 106.5%   | 3  | ・児童会活動、行事後の手紙交換、なかよし班掃除での振り返り、「ナイスな板城っ子」など、日々の活動を通して「互いの良いところを伝え合う」ことが、児童の自己肯定感の向上につながったと考えられる。<br>・自己肯定感の高さを表現することが課題であり、返事や挨拶の励行につなげていく取組が必要である。   | B  | ・返事や挨拶ができる子になってほしい。<br>・元気がある校風を希望する。   | ・返事・挨拶の取組を継続する。   |      |
|         |    |                        | 自己肯定感の向上             | ○学級の支持的風土を醸成し、学校満足度を向上させる活動の推進  | ・hyper-QUにおける学級生活満足群の全校児童の割合【80%以上】                                       | 80% | 82.5%  | 103.1%   | 3  | ・hyper-QUの結果を基に、校内で各学級の現状を把握し、それに応じた取組や個々の児童への配慮について検討の後、実践したことが、今回の成果につながったと考えられる。<br>・後期は、学習発表会や第2回「長縄チャレンジ」など、学年や学級で団結して取り組める行事を軸に、学級の支持的風土を醸成することで、児童の学級生活に対する満足度を維持・向上させていく必要がある。   | B  | ・学級生活満足度が低い児童に焦点をあてて課題の分析を行っていることが良い。<br>・学校行事等で学年、学級の団結力を高め、満足度の維持・向上をさせていく。         | ・hyper-QUの結果を生かし、継続的な取組をしていく。<br>・学校行事等で学年、学級の団結力を高め、満足度の維持・向上をさせていく。 |      |
| 健やかな体   | 3  | 健やかな心身の育成              | 体力・運動能力の向上           | ○体を動かす場と機会の確保(外遊びの日常化、体育朝会や体育学習の充実)                                   | ・新体力テスト「長座体前屈」の記録が伸びた児童の割合【75%以上】   | 75% | 84%  | 112.0%   | 4  | ・高学年は達成率が高くなっている。<br>・低学年に関しては、もともと体が柔らかいということもあるが、さらに柔軟性のある、怪我をしにくい体づくりを目指していきたい。<br>・柔軟体操を継続して行うことを全体に周知していく必要がある。<br>・楽しんで柔軟運動が継続できるように、外部から講師を招く取組をした。11月にも体育の授業に講師を招いて取り組む予定である。  | B  | ・長座体前屈だけでなく、他の種目の目標を立てて取り組んでほしい。<br>・体が硬い子が多いのでとても良い取組だ。                              | ・目標を立てた取組を継続し、体力・運動能力を高めていく。  |      |
|         |    |                        | 健康的な生活習慣の形成          | ○生活習慣の改善とメディアとの適切なかわり方に関する指導の充実                                       | ・「板城元気っ子デー」の全ての項目で8ポイント以上達成した児童の割合【90%以上】                                 | 90% | 91.3%  | 101.4%   | 3  | ・生活習慣の定着が全体的に進んでいる。担任による日常的な声かけや、養護教諭による保健指導の積み重ねが児童の意識付けに効果を上げていると考えられる。<br>・メディアの使用時間や就寝時刻に課題が残る児童もあり、今後は、委員会児童の活動や、家庭との連携を学年だよりやほけんだよりにて強化しながら改善を図る。  | A  | ・生活習慣の改善に取り組むことは重要なので継続してほしい。<br>・家庭を巻き込みながらの取組が必要なで継続してほしい。                          | ・さまざまな取組を継続し、生活習慣の確立、改善を目指す。  |      |
| 信頼される学校 | 4  | 保護者や地域に開かれた信頼される学校づくり  | 家庭・地域との信頼関係の構築       | ○学校運営協議会との協働による地域の教育力の活用と地域への貢献                                       | ・地域と連携した教育活動【各学年1回以上】   | 90% | 100.0%   | 109.4%   | 3  | ・地域と連携した教育活動は各学年とも計画し、実施または実施準備中となっている。各学年の実態に合わせ、地域の皆様との交流も増え、地域への愛着につながっている。<br>・HP・メールを活用し、学校日記・学校だより・学年だより・お知らせ文等を配信・配布し情報発信することができた。保護者アンケートで高評価をいただいたので継続していく。   | A  | ・今のまま継続してほしい。   | ・今後も地域との連携を密にし、活動を続けていく。  |      |
|         |    |                        | 「働き方改革(業務改善)」の推進     | ○業務改善の推進による子供と向き合う時間の確保(日課表の見直し、教職員の協働体制の確立)と時間外在校時間等勤務の削減(年間行事の見直し等) | ・定時退庁推進日における、18:30消灯・施錠【80%以上】<br>・教職員意識調査「本校は、働きやすい職場である」項目の肯定的評価【80%以上】 | 80% | 66.7%<br>95.8%                                   | 101.6%   | 3  | ・定時退庁推進日における18:30退庁は達成率が低いが、全体的に昨年度より退庁時間が早くなっている。勤務時間の有効活用することで、教材研究や業務の質を上げ、児童と向き合う時間を確保していく。<br>・ほとんどの教職員が働きやすい職場と感じている。働き方・業務を見直し、ストレスなく働くことのできる学校づくりを継続していく。  | B  | ・教職員の働きやすい環境は必須だと思う。  | ・働きやすい職場づくりを継続しながら、児童と向き合う時間を確保していく。                                  |      |

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価

4...目標を上回って達成  
2...目標をやや下回って達成

3...目標どりに達成  
1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)

A...とても適切である  
B...概ね適切である  
C...あまり適切でない  
D...全く適切でない  
(N...判定できない)